平　成　２５　年　度

長崎県立大村城南高等学校

学　校　評　価　の　結　果

（職員の自己評価・保護者、生徒、学校関係者の評価）

よくあてはまる；４　ややあてはまる；３　あまりあてはまらない；２　あてはまらない；１

学 校 教 育 目 標	長崎県教育方針に基づき、普通教育並びに専門教育を施し、我が国及び郷土の発展に寄与し、生涯を通じて学び、国際社会に貢献できる調和のとれた心豊かな人間の育成を図る。
学 校 経 営 方 針	『体験を基に、充実したキャリア教育を行う総合学科』　地域に信頼され、期待に応えうる特色ある高校づくりを推進する。
本年度の重点努力目標	『生徒起点の発想で、生徒が主役の学校づくりを推進する』 （１）授業の工夫と改善を図り、「学ぶこと」の大切さを気づかせるとともに、基礎学力テスト、資格検定試験、復習テスト等の学習訓練を行い「学力が定着する」喜びを味わわせる。 （２）総合学科の特性を活かした「産社」「インターンシップ」「課題研究」や日々の教育活動を通して、キャリア形成を推進し、進路実現を図る。 （３）授業・実習・研修合宿などの教育活動を通して、基本的生活習慣（特に、あいさつ・清潔・時間）を身に付けさせるとともに、健康で明るい学校生活を送らせる。 （４）部活動や生徒会活動の更なる活性化を図り、明るく逞しい協調性に富む人間を育成する。 （５）ホームページの充実及び保護者との連絡を密にし、地域への積極的な働きかけや連携を強め、地域から「地元の総合学科高校として理解され信頼される学校づくり」に努める。

１　組織運営に関する評価

評価項目	評　価　指　標	具　体　的　方　策	職員	生徒	保護者	学校関係者	評価平均値	成　果　と　課　題
学校組織	学校の明確な運営方針	総合学科の特性を活かした教育活動に努める。	3.5			4.0	3.8	５系列６分野を設置し、生徒の希望進路と興味関心に呼応すべく、２年生に１６科目、３年生に２５科目の自由選択科目を開講した。科目により受講希望者数に偏りがあり、講座のグルーピングの見直し検討が必要となった。
	主任等を活用した学校運営状況	分掌や学年組織等を活用して学校運営を推進する。	3.3			3.5	3.4	週一回の連絡調整会を開催し、学年・分掌の枠を越えて情報交換が行えた。

	各種委員会組織の活動状況	運営委員会をはじめ各種委員会活動を効率的に活用した教育活動に努める。	3.3			3.8	3.6	設置している２１の委員会を適宜開催し、諸事案に対応した。３委員会に７名の保護者に加わっていただき活性化が図られた。引き続き協力をお願いする。

２　学校経営に関する評価

評価項目	評　価　指　標	具　体　的　方　策	職員	生徒	保護者	学校関係者	評価平均値	成　果　と　課　題
学校運営	基礎学力向上のための指導状況	基礎学力の向上を図るとともに各種の資格取得を推進する。	3.3	3.2	3.3	4.0	3.5	週１回の基礎学力テストを年間２９回実施した。意欲的に取り組む生徒が増え基礎学力の向上に効果があった。資格取得(検定受検)の推進により学習意欲の向上を図った。３年生卒業時において９１％の生徒が少なくとも一つ資格(検定合格)を取得した。 また、本年度も昨年に続き商業科検定４冠を輩出することができた。
	特色ある学校づくりの実施状況	特色ある総合学科づくりの工夫に努める。	3.3	3.2	3.3	4.0	3.5	竹松農場での田んぼアート作成は６年目を迎えた。1542名の来観者があり、本校の特色ある事業として定着した。全国農業高校お米甲子園では特別優秀賞を受賞し、生徒の意欲向上につながった。県内県立高校唯一の介護福祉士養成校として、資格取得を目指したカリキュラムをおおむね予定どおり実施できた。今後は、各系列の特性を生かせる進路先の開拓に努める必要がある。

	学級経営状況	担任・副担任は、連携を密にして学級経営を行う。	3.4	3.0	3.1	3.8	3.3	各学級で正副担任間の情報交換､連携はスムーズに行われた。正担任に比べ、副担任の仕事は事務的校務が多いため、生徒と直接関わることが比較的少ない。副担任も生徒と直接的関わりを増やすことが求められる。校務に偏りが生じないよう、年間を見通した業務分担が課題。
	部活動の活動状況	部活動への入部を奨励し、学校の活性化を図る。	2.9	3.0	3.1	3.3	3.1	男子生徒数が少ないため男子部活動の活性化と無所属生徒への指導が課題。職員の休日返上、また、早朝からの指導に意欲的に応える生徒がおり、活躍が期待できる。生徒の活躍の場の提供、人間性の陶冶に向け、一層の活性化が必要。
	「朝の読書」の実施状況	「朝の読書」の定着に努める。	3.3	3.2	3.1	4.0	3.4	各学級においておおむね良好な実施状況であった。読書習慣の定着と落ち着いた雰囲気作りに成果があった。

３　教育活動に関する評価

評価項目	評　価　指　標	具　体　的　方　策	職員	生徒	保護者	学校関係者	評価平均値	成　果　と　課　題
教育課程	個に応じた学習指導状況	習熟度別または個別指導によって学力の向上を図る。	3.1	2.8	2.9	3.3	3.0	生徒個々の学力及び希望進路に応じた指導が展開され、学習意欲の向上、進路実現に成果が見られた。学習意欲が乏しい生徒への啓発が課題。

	家庭学習状況	宿題等を工夫して作成して家庭学習の充実を図る。	2.8	2.7	2.8	3.3	2.9	資格取得(検定受検)にリンクさせた課題提供は家庭学習の充実に繋がった。毎月実施した家庭学習状況調査では、各学年に家庭学習時間ゼロの生徒が６～１１％いる。課題の与え方の工夫が引き続き必要。
	外部人材の活用状況	外部講師や民間講師を招聘して授業の深化を図る。	3.5	3.3	3.1	4.0	3.5	外部講師を招いての授業及び講話を全学年で年間にのべ３３回実施した。生徒の興味関心の喚起に成果があった。次年度も継続する。今後は、保護者への周知を含め情報提供を工夫する必要がある。
	「総合的な学習の時間」の活動状況	「総合的な学習の時間」を活用して自発的・自主的学習態度の育成を図る。	3.1	3.0	3.1	3.5	3.2	キャリア教育を根底に据え、生徒各自の進路実現のための計画的な学習が行われた。特に３年生の課題研究では自主的、意欲的な取り組みをする生徒が多く見られた。
生徒指導	容儀指導状況	校門指導や容儀検査を定期的に実施して指導の徹底をはかる。	3.2	3.5	3.4	4.0	3.5	本年度より定期考査終了日に学年毎の一斉容儀指導を実施した。その成果はあったと思われる。冬場の校内でのマフラー着用、セーターのはみ出しが目立った。引き続きの指導が必要。
	交通安全教育の活動状況	自転車の乗車マナー等交通安全の意識向上に努める。	3.2	3.4	3.2	3.8	3.4	９月、生徒会が大村警察署と連携し「自転車事故・歩行者事故 根絶交通安全宣言」を行った。交通安全意識の高揚に成果があった。しかし、自転車事故は無くなっていないのが現状で、今後も安全指導、交通マナー指導が必要。

	教育相談体制の整備状況	「悩み調査」や「被害調査」を活かしていじめ・盗難防止に努める。	3.3	2.8	2.8	3.5	3.1	各学期に生徒の悩み、いじめに関する調査(アンケート)を実施した。教育相談部、スクールカウンセラーが連携し悩みを持つ生徒や配慮が必要な生徒への相談・指導体制を維持した。諸調査や教職員の観察により認知したものへは適宜対応し、解決をはかった。調査の実施状況について保護者への周知の仕方を検討する。
	人権に関する指導状況	人権・同和問題に対する認識を深め、人権意識の高揚に努める。	3.1	2.8	2.9	3.3	3.0	教育相談部が策定した人権・同和研修会への職員の参加計画に基づいて研修を進めた。生徒への人権教育は「こころの教育」と関連づけて実施した。日常的な生活規範教育と繋げて実施することが必要。
進路指導	進路実現のための指導体制の整備状況	進路実現のための科目選択や時間割づくりに努める。	3.3	3.0	3.1	3.8	3.3	昨年度に引続き、就職進学ともほぼ100%の進路決定となった。生徒の進路実現につながる科目設定、科目グルーピングの検討が必要。今後は、系列の特色を活かす進路指導を進めたい。
	主体的に進路選択する能力・態度を育成するための指導状況	生徒の実態に即した進学指導や職場開拓に努める。	3.2	3.1	3.1	3.5	3.2	就職指導部を中心にキャリアサポートスタッフと連携を取って職場開拓にあたった。３件の新規求人を獲得できた。景気の底を脱出したと言われるが、まだ厳しい情勢が続いている。継続して職場開拓に努力する必要がある。

４　教育環境に関する評価

評価項目	評　価　指　標	具　体　的　方　策	職員	生徒	保護者	学校関係者	評価平均値	成　果　と　課　題
安全管理	学校安全計画の作成と安全点検の実施状況	学校の安全管理について不審者の侵入を防ぐなどの対策に努める。	3.1	2.7	2.9	3.3	3.0	開かれた学校を目指し、農場等への地域の方々の来校を積極的に受け入れており、外来者への声かけが必要。また、事務室窓口来校者受付での記名の徹底を継続する。校内の垣根及び樹木を定期的に剪定し死角を作らないようにする必要がある。生徒、保護者からの情報収集及び情報共有を行う必要がある。
保健管理	日常の健康観察や健康管理能力向上のための取組	生徒の健康管理についての意識向上を図る。	3.5	2.9	3.1	3.3	3.2	生徒会保健委員会が毎月、「ほけんだより」を発行し、健康に関する情報提供をおこなった。また、本年度より各月に健康週間を設け、生徒各自に健康づくりに向けたチャレンジ目標を設定させる取り組みを行った。職員の健康指導に対する意識向上に成果があった。この新しい取り組みが生徒へ充分に浸透しなかったことが反省点。生徒が活動の意義目的を理解するような働きかけが必要。
	校内美化に対する取組状況	毎日の清掃の監督・点検に努める。	3.1	3.1	3.1	3.5	3.2	掃除時間における監督者による出欠確認と同伴清掃により校内美化に成果があった。教師が不在時の掃除の取り組みが十分でない。今後の課題である。
施設・設備	施設・設備の点検等の実施状況	日ごろから施設・設備の点検を行い、事故防止に努める。	3.2	2.9	3.0	3.5	3.2	日々の戸締り巡回時の点検、危険箇所確認を継続する。指摘があった箇所については、速やかに対応し、改善が図られた。
	学習生活環境の充実のための取組状況	危険箇所の改修については迅速に行うよう努める。	3.4	2.9	3.0	3.5	3.2	安全第一を念頭に、点検、確認、改修の適宜実施に引き続き努める。危険箇所、要改修箇所に関する生徒からの情報収集のあり方を検討する必要がある。

５　開かれた学校づくりに関する評価

評価項目	評　価　指　標	具　体　的　方　策	職員	生徒	保護者	学校関係者	評価平均値	成　果　と　課　題
保護者・地域住民との連携	学校開放の実施状況	公開授業や参観授業に積極的に取り組む。	3.0	2.5	3.0	3.5	3.0	５月の育友会(ＰＴＡ)総会時に一斉公開授業を実施した。授業参観者は67名（約15%）と少なかった。今後、事前の周知方法を含めて保護者等への働きかけに工夫が必要。 農業科による地域開放講座を年間を通して実施した。昨年度に続き年間８回の講座を開講し、親子１５組(３０人)の受講者があった。農業科職員が担当し、本校の魅力を理解してもらうことに成果があった。
	保護者との連携状況	保護者と連携して欠席・遅刻の防止に努める。	3.1	2.7	3.1	3.5	3.1	遅刻欠席の連絡は保護者からしてもらうようにお願いしている。概ね協力が得られており、引き続き協力をお願いする。生徒に対し学校と保護者の連携の意義について理解を促す必要がある。
	教育相談体制の整備状況	適宜保護者面談を実施し、家庭と連携を図る。	3.3	2.8	3.0	3.5	3.2	１年生全員に対し４月に教育相談部による面談を行った。悩みを抱える生徒とは、随時、面談を行い、必要に応じてスクールカウンンセラーへ繋いでいる。また、保護者との面談も随時行い相互理解に努めている。生徒に対し学校と保護者の連携の意義について理解を促す必要がある。
（生徒のみ）他者への配慮	※Ｈ２５年度からの新項目	自分は周囲や相手のことを思いやって生活できている。		3.1			3.1	教育相談部による人権教育、ソーシャルスキル研修、及び情報モラル教育を年間指導計画に組み入れ、充実を図る。日常の学校生活の中で、他人への配慮の重要性を理解させる働きかけの継続的に実施する。
（生徒のみ）環境への配慮	※Ｈ２５年度からの新項目	自分は環境問題を意識し、何らかの取り組みをしたことがある。		2.9			2.9	関係教科(公民、理科、保健、家庭、農業)の授業の中での学習に加え、生徒会活動等を通して生徒の意識向上を図る取り組みが必要である。